

## 財団法人 日本特産農作物種苗協会の概要

財団法人日本特産農作物種苗協会は、昭和43年12月3日農林大臣の認可を受け設立されました。法人設立の経緯を「設立趣意書」から紹介すると以下の通りです。

### 設 立 趣 意 書

従来、種苗の供給については、各作物、各県ごとに、原原種ほ等が設置され、個々分散されて供給されてきた。このため、零細かつ非効率化し、また種苗の需要の増減に対応して、生産が必ずしも弾力的に行われたとは言い難い面もみられた。

従って、我が国の地域農業において重要な位置を占める特産農業の農業経営上必要不可欠な優良な原種苗の安定的な供給をはかるため、総合的な種苗の供給調整と、優良種苗および新品種の責任にある生産体制の確立をその目的とする日本特産農作物種苗協会を設立し、政府の行う地域特産農業推進対策とあいまって、特産農業の生産性および品質の向上に努め、もって地域特産農業の振興に寄与しようとするものである。

これが、財団法人 日本特産農作物種苗協会を設立せんとする趣旨である。

法人設立目的に沿い、現在、本部及び北海道に2カ所の特産種苗センターを運営し、需要に対応した特産農作物に係る種苗生産業務等を行っていますが、平成19年度は以下の事業を実施しました。

### 1、原種苗の生産・配布事業

#### (1) 原原種の生産配布事業

作物名	品種数	作付面積 (a)	種子生産量 (kg)
菜豆	3	570	23,000
そば	1	100	710

#### (2) 原種等の生産配布事業

作物名	品種数	作付面積 (a)	種子生産量 (kg)
大豆	3	370	11,500
小豆	1	310	8,600
菜豆	2	360	7,100
高級菜豆	2	30	1,700
秋播小麦	2	1,300	77,800
二条大麦	1	280	7,865
馬鈴しょ	11	1,560	526,000

#### (3) 地域特産種苗生産配布事業

作物名	品種数	作付面積 (a)	種子生産量 (kg)
ながいも	2	90	21,000
薬草	1	3	40,000本

2、調査、試験研究事業

- (1) 地域特産農作物定着化調査  
ながいもの品種選定、栽培技術に関する調査
- (2) ばれいしょ海外導入品種及びマイクロチューバーの栽培試験  
導入9品種のMT及びMT由来種子による品種特性、栽培技術に関する調査
- (3) 薬用作物の採種試験  
トウキの採種栽培に関する調査
- (4) 馬鈴しょ種子の後代検定  
地域で生産された原種、採種産種子のウイルス病に関する後代検定

3、ばれいしょ加工適性研究会の運営

食品加工ばれいしょの需要拡大により、国産ばれいしょ生産と加工産業の振興を目的に、その元となる加工用とごとに加工適性を備えた品種育成を加速するため、育種、生産、加工、行政等関係者で構成する「ばれいしょ加工適性研究会」を主催し、新品種の育成・推進に努めております。

(参考) なお、過去には、以下のような種苗生産・調査事業等を行ってきました。

- 1、種苗の生産・配布（こんにゃくいも、落花生、はとむぎ、甘しょ、南瓜等）
- 2、試作展示ほ場の設置（薬草類）
- 3、調査・試験研究事業
  - (1) 豆類導入品種の試作、特性の調査、採種試験（ルーピン、しかくまめ等）
  - (2) アマランサス導入調査、採種試験事業
  - (3) 種苗特性分類調査（大豆、落花生、ササゲ等）
  - (4) 採種栽培試験（てんさい、ながいもムカゴ等）
  - (5) 豆類ウイルスフリー種苗研究会
  - (6) 小豆品種地域適応性検定試験
  - (7) 系統比較試験（小豆、ながいも等）
  - (8) 豆類貯蔵種子発芽試験
  - (9) 国内外から収集された小豆遺伝資源の増殖、特性調査
- 4、優良種苗安定確保（ユリ、ニンニク等のウイルスフリー化、薬用作物の種苗増殖）
- 5、優良種苗保存（ユリ、ニンニク、ヤマトイモ、黒大豆、白小豆等の保存）
- 6、国際協力体制整備事業（国際協力事業団より業務委託を受け、インドネシア大豆種子増殖・研修計画、インドネシア種子馬鈴薯増殖・研修計画のプロゼクトに協力）
- 7、海外集団研修（海外技術協力の一環として、畑作物の種苗生産コースの研修を実施）

〈特産種苗センターの概要〉

区 分	網走特産種苗センター	十勝特産種苗センター
所在地	・北海道網走郡大空町女満別湖南	・北海道河東郡幕別町豊岡
職員数	・場長含め4名	・場長含め4名
ほ場面積	・2.7 h a	・3.7 h a
種苗生産作物	・麦類、大豆、雑豆類、薬草 ばれいしょ、ながいも	・麦類、大豆、雑豆類 ばれいしょ、ながいも